

「新年に想う」

台長 宮本幸男

明けまして、おめでとうございます。

“一年の計は元旦にあり”と、希望に夢も織り混ぜて、楽しい観測の年間計画をたてられた方もおられることでしょう。

大晦日から一日にかけての、“プレアデスの食”は、「年越し蕎麦」をいただいた後、往く年と来る年の接点に起こる現象です。Jさんに倣って「吾れ星を想う、故に……」と、考えてみるのもいいでしょう。

3月18日の“部分日食”は熊本で最大62%の食となります。その時、小笠原沖の洋上では皆既日食となるので、会員数名の方は既にクルーズに申し込まれた由で、ビデオやスライド、それに「みやげ話」が楽しみです。

5月は熊本県民天文台の満6周年です。会員皆様のお陰で天文台は元気です。今後も、ますます発展の方向で、みんなの英知を出し合っていきましょう。

7月10日の未明、今年3回目の“プレアデスの食”ですが、細い月（月令25.4）の暗縁から出現する「エレクトラ」は、どんな眺めになるのでしょうか？

8月12日の“ペルセウス座流星群”は、月もなく最高の条件です。天気さえ良ければ1時間に50～100個の流れ星を期待できそうです。また、ワイワイ言いながら“井無田高原”にでも出掛けましょうか！

9月22日の“火星”大接近は、視直径にして24秒近くにもなるので、大いに楽しみです。今年の火星は、南半球側がよく見える筈で、17年前の大接近とよく似ているようです。その時は南極環が縮小していく過程で、大きなクラックが入り、その後急に小さくなりました。火星の世界では、今年は4月18日が春分ですから、早いうちから見るほうがいいです。夏休みの頃には、南極環は融けて流れ、大黄雲となって北へ移動するかもしれません。17年前の1971年には火星を見ようと、21cm反赤を自作して毎晩庭の観測室に立ったことを思い出します。

夏から秋にかけて、天文台は「星見物」のお客さんでいっぱいになることでしょう。

運営委員の努力のお陰で、熊本県民天文台の一般公開は定着し、日本一と評価されています。天文台から見る「星」を通じて、会員とお客さんが“感動”の一瞬を味わうことができれば、最高の幸せです。

ハレー彗星の観測記録も、近くまとまるものと思いますが、これに続いて天文台の業績として残るような、「何か！」をやりたいですね。

さあ！ 今年も楽しく、賑やかに頑張りましょう。

（おわり）

明けましておめでとうございます。

会員のみなさんは、それぞれに一年の計画を立てておられるでしょう。私も、仕事との関連もあって、年末には 天文年鑑や朝日コスモスの発行を、一日でも早くと待ち望み、自分の楽しみも含めて、プラネタリウム“冬”のリーフレットの原稿作りや、“星を見る会”の年間予定表作りの楽しみを、味わっています。

博物館の“星を見る会”は、昭34年の10月に始まり、毎月一回開いているもので、中止した日も含めると、今月で39回目になります。初心者向けの会ですから、日没後30分以内に始めて、約1時間半という時間帯です。それで、面白い天文現象がうまく観察できることは、殆ど期待出来ません。でも、みなさんにも 知っておいてほしいし、協力して頂けることを願って、一応発表しておきましょう。

博物館の“星を見る会” 昭和63年の予定

月	日	曜	開始時刻	21時月令	おもな 観望対象
1月	22日	(金)	18:00	3.4	月、水星、金星、木星 ほか
2月	24日	(水)	18:30	6.9	月、金星、木星、オリオン座M42
3月	22日	(火)	19:00	4.3	月、金星、木星、プレアデスの食
4月	20日	(水)	19:00	3.8	月、金星、とも座M46 ほか
5月	19日	(木)	19:30	3.3	月、水星、金星、しし座 γ 星 ほか
6月	8日	(水)	19:30	23.2	ミザール、りょうけん座M3 ほか
7月	19日	(火)	19:30	5.2	月、土星、さそり座M6、7 ほか
8月	18日	(木)	19:00	5.7	月、土星、アルビレオ、M13 ほか
9月	16日	(金)	18:30	5.2	月、土星、リング星雲 ほか
10月	13日	(木)	18:00	2.6	月、火星、土星、みずがめ座M2
11月	18日	(金)	17:30	9.1	月、火星、アンドロメダ座M31
12月	13日	(火)	17:30	4.6	月、火星、木星、ペルセウス座 η

以上のほか、特別番組として、3月18日に 部分日食 観察会を予定しています。館内では、太陽望遠鏡を使いますし、屋外展示場では、木もれ日による 日食像の観察などを考えています。

さて、熊本県民天文台では、どんな観測が出来るのでしょうか。

日食や月食も一応見られるし、スバルの食や金星食と、今年は 食現象の当たり年の ようです。また、17年ぶりに 火星が大接近したり、木星や土星も観測しやすくなるなど、惑星の当たり年ともいわれています。今年 近日点通過が予定されている すい星 では、テンペル第2すい星が 期待できるでしょうし、流星群では、8月のペルセウス群が、極大日に 新月という 好条件です。

では、日を追って 楽しみそうな天文現象を、書き並べてみましょう。

①大晦日から元日にかけての、スバルの食は どうだったでしょうか？ 1月4日の、

りゅう座流星群は、満月では期待できませんね。

②3月18日の日食は、どうされますか？小笠原近海その他に、観測ツアーが計画されているようです。私の場合は相変わらず、一番近い所で観察しなければなりません。

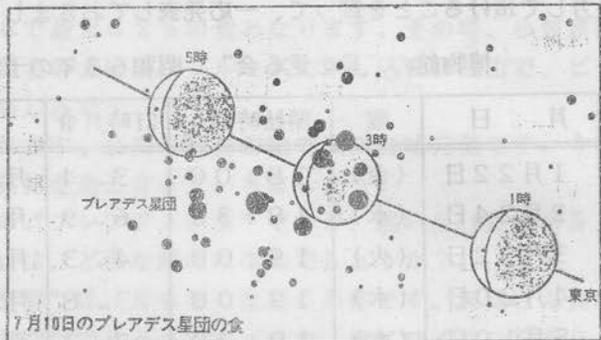
熊本では62%の部分日食です。博物館では、前記の通り 太陽望遠鏡 その他で観察する予定です。

小笠原へ出掛ける方には、ビデオカメラでの記録に期待しましょう。

ウィークデーの昼間のことですから、各学校では どう扱うのでしょうか。なるべく多くの学校で 観察されるよう おすすめしたいものです。

③3月22日には、スバルの食が見られます。前記の“星を見る会”では、その時間帯の範囲内で観察の予定です。会場は 去年の10月から 博物館西隣りの“熊本城公園 三の丸 市民の森”広場に移っていますが、空は さほどよい条件とは言えません。天文台の方が はるかに良好な空が望めるでしょう。月齢が4.3~4.4で、地球照も見られるでしょうから、双眼鏡での観望や、風景を入れた写真撮影も面白いでしょう。

④7月10日は、年内でもっとも条件のよい スバルの食が見られます。月の中心が スバルの ほぼ中央を通るし、今度は 明け方の 月齢25.3の月で、これまた 地球照と共に 写真撮影の好対象になりそうです。ただ、梅雨が まだ 明けていないかも知れませんね。また、その日の出勤・出席に 差支えないよう 注意しましょう。



⑤8月12日は、ペルセウス座流星群の出現が 極大の日です。例の井無田高原への 合宿観測も考えられています。いずれにしても、極大日が新月という 好条件に恵まれていますから、楽しみに待ちたいものです。

⑥8月27日の月食は、食の最大が 0.297という さびしい部分日食です。でも夕涼みかたがた 眺めてみるのも いいでしょう。

⑦9月22日は、1971年以来 17年ぶりの、火星大接近の中の 最接近の日です。数か月前からの 連続観測が必要です。最近メキメキと腕を上げた、スケッチの上手な 大学生に、“星屑”をかざる 立派な 火星のスケッチを期待しましょう。

最接近の頃の火星は、視半径が23.8秒にもなります。そして、南半球が大きく地球の方を向いているので、南極冠など 南半球側が見やすくなっています。その南半球は、夏にあたっていて、溶けつつある 極冠の変化のようすが、眺められそうです。

⑧年末には 木星が見頃を迎えます。11月23日に衝になります。

おうし座のヒアデス星団と、プレアデス星団の間を、ゆっくり逆行する木星は、高い夜空をかざり、すばらしい被写体になるでしょう。

以上のように、楽しめそうな天文現象は、もり沢山です。詳しいことは、毎月の天文雑誌なども 参考にされて、心ゆくまで 星空の美しさを 味わってください。(おわり)

1988 天文現象早見表

1	4	○	22 ^h りゅう座流星群	7	10		3 ^h すばる食		
	9		くじら座のミラが極大光度		14	●			
	12	●			20		金星が最大光輝 (-4.5等)		
	19	●			22	●			
	26	●		25		やぎ座流星群			
				27		みずがめ流星群			
2	3	○		8	1		やぎ座α流星群		
	11	●			5	○			
	12		3 ^h さそり座πの星食		12	●	ペルセウス座流星群		
	18	●			21	●			
	23		6 ^h 火星が天王星の北0° 01' を通る。		27	○	部分月食 (最大食分0.23)		
	24	●							
3	4	○	部分月食 (最大食分0.003)	9	3	●			
	11	●			11	●			
	18	●	11 ^h 皆既日食		19	●			
	22		20 ^h すばる食		22		火星の最接近 (この頃、観測好機)		
	25	●			25		仲秋の名月		
4	2	○		10	3	●			
	10	●			7		11 ^h 金星食		
	16	●			8		りゅう座群 (ジャコビニ流星群)		
	20		おとめ座流星群		11	●			
	22		5 ^h こと座流星群		18	●			
	24	●			20		オリオン座流星群		
5	2	○		11	25	○			
	3		22 ^h さそり座πの星食		1	●	おうし座流星群		
	5		みずがめη流星群		9	●			
	7		金星が最大光輝 (-4.5)		17	●	このころ、木星の観測好機		
	9	●			24	○			
	16	●			12	1	●		
	17		この頃、水星を見るチャンス			9	●		
	24	●				14		ふたご座流星群	
31	○		16	●					
6	7	●		22		こぐま座流星群			
	14	●		23	○				
	22	●	この頃、天王星海王星の観望好機	31	●				
	30	○							
	6	●							

Star Watching in Plant

石原 恵子

最近、星という字や形に異常に反応してしまう私です。園芸店に入っても結構あるものです。思わず手にしてしまったもの、函鑑で目を止めてしまったものなど、並べてみました。

ホシツツリー高山植物で、北面に植えます。

ホシザクラー星桜。花タバコの別名でピンク色の花が咲きます。

ホシザキキキョウナデシコー夏、淡いピンク系の花が咲きます。英名スターフロックスというそうです。

ホシザキユキノシター普通のユキノシタの変わり種です。

ホシノゲイトウー星野鶏頭。沢山の花々の咲いた機子が夜空の星の機だと言うので付いた名前だそうです。漢名は満天草。

ホシザキイナモリソウーイナモリソウの花弁の巾がとても狭いものです。

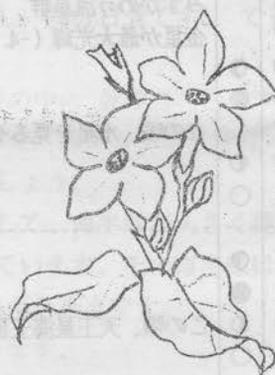
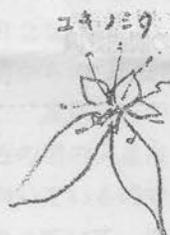
ホシケイランー蘭の仲間でガンゼキランの葉に黄色い斑点が入っているものを言います。

ホシヒトツバー羊歯類で葉の裏に胞子が沢山付いているのでこの名があります。

Star Jasmineーとても良い形で白い星型の花が咲きます。

Star Magnoliaーモクレンの仲間で白い八重の花が咲きます。

Star of Bethlehemー白い星型の花が咲きます。

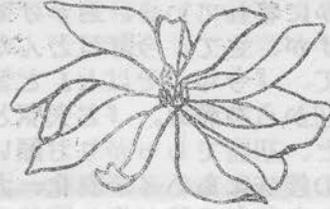


ホシザクラ

Star of Bethlehem



Star Magnolia



Star of the marsh 一種の様に星型の白や薄紫色の花々が咲きます。

Starry Grasswort 西洋ミミナグサという雑草。

なんと苔の仲間にもあったのです。

ホシガタケイソウ 星型をしていて互いに着き合っています。

ホシミドロ 星状の葉緑体を持っているのです。

他にはスターラベンダー 星型の青い花が咲きますが香りは殆どありませんでした。

クリスマスの星 ポインセチアのことです。

銀河 さぎ草の一種です。

そして一番気に入っているのはホシクサです。干し草ではなく星草と書きます。花が咲いた様子が、星の様だと言うのでこの名前があります。この仲間には白玉星草(別名コンペイトウグサ)という、もう少し派出目に花が付く種類もあります。

この他にも Star Tulip 等もありますが、何か御存知の方、いらっしゃったらどうぞ教えて下さい。

新年明けましておめでとございます。

昨年は、星につけられた仮符号がA～Zで終わりきれず、ついに新方式を生み出すなど賑やかに暮れていき、おかげで睡眠不足になやまされた人も多かったと聞いておりますが、さて、今年はどうなるのでしょうか？

新年にあたって、『今年こそは！』と皆さん張り切っておられることでしょう。

私などは、最初から神頼み。『お天気と、お金と、ヒマと、チャンスに恵まれますように！』と、初詣でしっかりお願いしてきました。

近ごろ、天文の趣味にもハイテク化、大口径化、観測所建設ラッシュ、そして海外観測旅行ブームなどの波が押し寄せ、どちらをむいてもお金のかかることばかり目につくようになりました。しかし、考え方によっては、高性能な機材が誰にでも使えるようになり、特別の熟練なしでも一定の成果を期待できるとか、気楽に天体観測（観望）ができるなどの効果がある訳で、天文ファン層の広がりが私たちの予測を超えて進行しているのかもしれない。

県民天文台も、そうした環境の変化に対応しつつ、より良い運営体制を作っていくたいものです。

その足しになるかどうかは分かりませんが、新旧の情報をいくつかお知らせして話題を提供したいとおもいます。

その1. 九州東海大・宇宙情報センター

最近、九州東海大の先生をご紹介頂きましたので、早速おじゃましてお話を伺ってきました。鳴海先生と河野先生です。

九州東海大では、熊本空港そばの宇宙情報センターの建設に伴い、人工衛星をつかった各種の研究を実施しておられます。リモートセンシング、測地、通信など広範囲にわたり、特に、GPS (Global Positioning System) を利用した研究によりハワイの島が毎年8cmも移動していることを確認されたお話など、私には大変興味深くおもしろかったです。

人工衛星の軌道計算についても、相当高精度な計算用ソフトウェアをお持ちのようですから、興味のある方は一度伺ってみてはいかがでしょうか。

この分野は、河野先生が担当しておられます。

又、宇宙情報センターの前を通ったことのある方は、その一角にドームがあるのに気が付かれたことと思います。大きなパラボラの群れに圧倒されて、ドームの存在に気づかなかった人もいるかもしれませんね。

88年1月1日現在、ここにはまだ望遠鏡が入っていませんが、2月頃には、三鷹光器製の40cm反射赤道儀が据え付けられる予定です。

低膨張率のガラス・セラミックス製の主鏡をもつかセグレイン型式だそうで、火星の観測に主として使われるそうです。鳴海先生は、火星の大気中の雲の拡散を観測し、分析することにより、火星大気の仮想モデルを使ったシミュレーションとの比較から、火星大気についての研究を行っておられます。写真撮影をし、画像処理によってデータを集められるそうですから、これも又とても興味がわきそうです。

更に、新しいテーマとして、人工衛星の光学的観測を計画しておられるとのことでしたので、I・I（イメージ・インテンシファイア）とCCDビデオ装置の導入をご検討頂いております。

県民天文台のような訳にはいかないでしょうが、地域と交流のできるような活用を考えていらっしゃるようですから、機会があれば、ぜひお手伝いをさせて頂きたいとおもっています。春頃には、整備も一段落して、夏の火星大接近に向けて観測活動が開始されることでしょうか。その頃、皆で見学させて頂くことにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

その2. テクノポリスセンター

これも、空港そばの、テクノリサーチパーク内にあります。

細川県知事の熱心なテクノポリス建設の象徴ともいえるべき建物で、建築物だけを眺めていても楽しめる程のものですが、その内部に展示・実演しているハイテク展示物にもなかなか評判のたかいものがあります。

中でも、館内のディスプレイで自由に楽しめるビデオ・ライブラリーは、一見する価値の高いものです。惑星間探査機による映像をつかった宇宙シリーズが、各惑星毎にそろっています。豪華な会議室では、これらの映像をビデオ・プロジェクターをつかって、大スクリーンに投影することもできますから、一度に大勢で楽しむこともできます。皆さんも、ぜひ一度お出かけになっては如何でしょうか。（これは、コマーシャルではありません。）

その3. 観測機材の工夫など

先にも触れましたが、観測用機材のハイテク化が進んでいますが、全てを購入して使えるほど豊かではありません。（J君などは例外ですヨ．．．）

あれこれ工夫をこらして効率よく使いこなしている例を時々見かけますが、そんなノウハウを提供しあい、ワイワイとこんごの天文台の設備拡充計画まで話するような場を持つてみてはいかがでしょうか。

この間、博物館で『星屑』のバックナンバー（永井先生がきちんとファイルしておられます。）をみていましたら、以前の活動の様子が生き生きと伝わってくるし、いろんな計画なども今掘り起こしてみると面白そうなものが沢山出てきそうです。何人かで、宮本さんのお宅へでもおじゃまして昔のようにワイワイやるのも良いアイデアかもしれません。

天文台も、もうすぐ6周年、望遠鏡も少しくたびれて来つつあるようですから、みんなの知恵を出し合って、快適な観測・運営環境をつくりましょう。なぜか、宮本さんのお宅でやると良いアイデアがでるんですよね！（決して、コーヒーやお菓子が目当てでいっているのではありませんよ）

その4. 観望会など

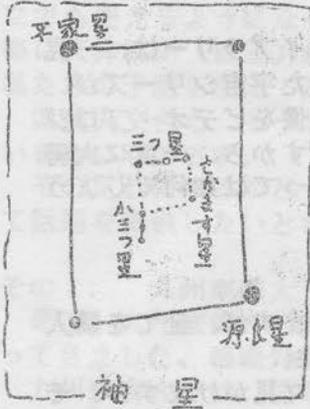
先日の井無田での観望会・キャンプは、最高でした。幹事さんほんとうにご苦労様でした。ぜひ、今年もやりましょう。今度は、もう少し大勢参加できるように工夫して、恒例のイベントにしましょう。！！

（幹事さん、今年もよろしくお願ひします。）

(一) オリオン座

三つ星は言うまでもなくオリオンの帯を飾る三つの二等星を指すもので、これに対して剣を飾る三つの星はコミツボシと呼ばれます。この星が三つ星に從属するものとみられるのはその位置と並びがらみてごく自然であり、ミツボシノオトモ、トモボシ、インキョボシなどの呼称があります。面白いものとしては、三つ星に対してほぼ直角に交わっていることから、三つ星のタテサンに対してヨコサンとの呼称も伝えられています。

三つ星と γ 星にコミツボシをつないだ形、つまり正方形に短い柄を付けた形を指してサカマスボシ(酒旗星)、ゴーマス(合榎)、サマス(指榎)などの名で呼び、「サカマスサンが宵に昇るようになったら新酒ができる。」などと言うのは私のような星好きであり、酒好きである人間にはほのぼのと心地の良いものです。



オリオンの三つ星は源平の旗の色(白・赤)から名付けられた青白いゲンジボシ(源氏星)と赤いヘイケボシ(平家星)の二つの一等星に二つの二等星を加えた四辺形に囲まれており、この上下の二辺と三星の両端をつないだ形はツツミボシ(鼓星)と呼ばれます。このオリオンの腰のくびれを指したものでクビレボシの名もあります。

星の和名はどれも森林にその形を言い表しています。それでいて、中には落ち着いた華やかさを合わせ持つものが見られます。例えば、オリオンの三つ星を囲む大四辺形を三つ星をあざやかに染め出した濃紺の袖と見たソデボシ(袖星)という名前など、その和風な華やかさに感じ入るばかりです。

(二) 大いぬ座・小いぬ座

全天第一の明るさを誇るシリウスに、その強い光と青い色からオオボシ(大星)とアオボシ(青星)の二つの呼称があるのは至極当然のように感じます。この他にも能登の輪島で呼ぶカゼボシ(風星)はこれが夜明け前に出る季節は風がよく吹くために言う呼称ですが、これは冬の代表的な一等星の風合いを良く表しており、特に気に入っている呼称でもあります。また、雪の近いことを教えると言うユキボシ(雪星)の名もこれと並ぶ良い名です。

風星から南へ行くと、犬の尾に当たる部分に三つの二等星が直角三角形を描いているのが目につきます。これにはその形から素直にサンカクボシ(三角星)や鞍をかける台にみたクラカケボシ(鞍掛け星)などと呼ばれ、この直角を三等分した右の線を延ばすとカープスを見つけることができます。小いぬのプロキオンは冬の地の一等星に比べやや地味な星なので、シリウスと比べたチイサイオオボシ(小さい大星)の名やイロシロ(色白)などのこじんまりとした優しい名前と呼ばれています。



(三) りゅうこつ座

りゅうこつ座の α 星カノープスは、天文台の辺りでは山ぎわに沿って昇っていき結構はつきりと見えるのですが、もっと北の中部地方位の緯度になると雨の地平にのぼりすぐに沈んでしまうためか様々な呼称が伝えられており、多くは天気占いに用いられています。静岡の市原ではメラボシと呼ばれ、これが出ると必ず暴風雨になると言い、またここから一望ほど離れた横濱村では、ニュージョウボシ（入定星）と呼び、入定した船が自分が死んだら星になって現れるがそれが出たら必ずしけになるので船を出すなと言いのこしたと伝えているそうです。変わったところでは、ゲンゴロウボシ（源五郎星）やゲンスケボシなどと呼ぶ地方もありますが、やはりこれが現れると雨になると言います。

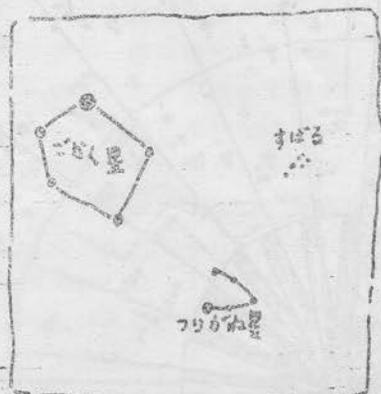
(四) ふたご座

カストールとポルックスは、程良い間隔でほぼ同じ光を放っているために目にとまり易く、フタツボシ（二つ星）やカドグイ（門杭）などと呼ばれヤクボシに用いられた星です。フタツボシの名は地方によってはこぐま座の α と β とを指すものですが、静岡の一部ではふたご座のものを「大きい二ボシ」、こぐま座のそれを「小さい二ボシ」と呼び分けます。カドグイは旧正月の頃に現れるので、丁度そのころ立てる門松の杭に見立てた呼称です。モンバシラ、モンボシなども同じ意味でしょう。この様に旧正月に結び付けた方言にはアウニボシ、モチクイボシなどもあり、共に旧正月の雑煮が祝えることを言ったものです。

(五) ぎょしゃ座

ゴカクボシ（五角星）はカペラをその一角として昇ってくるぎょしゃ座の大五角形にはあって当然と書いた感じの呼び名でしょう。

さて、この全天でも第五位の一等星はノトボシ（能登星）、サドボシ（佐渡星）、ヤザキボシ（矢崎星）のようなその昇る方向で言う地方が多くありますが、これらはローカルすぎる気がします。けれど、すばるが見えない時でもこの星からその位置が判定できるのでスマルノエーデボシ（相手星）やキタスマル（北スマル）などと呼ばれて重要視されたヤクボシでもありません。



(六) おうし座

おうし座といえばやはり枕草子に記されたすばるが真っ先に目につきます。このスバルの名は現在まで言われている星の和名としてはおそらく最古のものでしょう。これは日本書紀や古事記でしばしば見られる八咫瓊五百箇御統（ヤカニイリスマル）、もしくは美須麻流之珠（ミスマルノマ）から出たものと解されており、スマルが後代にはスバルに転じて今に至っているようです。もっとも、四国、九州、瀬戸内海沿岸では主としてスマルと呼び、畿内以東ではスバルが普通となるそうです。さらに、関東に入るとムツラボシ（六連星）の呼称が多くなります。

これまでの名は広く一般に言われていたものですが、勿論もっとその土地に特有な愉快なものも多くあります。イショウボシ（一升星）は星が一升櫛にかがるほど集まっているからで、このようなすばるの印象を表した方言には、スズナリボシ（鈴生り星）、ソウダンボシ（相談星）、ゴチャゴチャボシなど多数あり、また、ぼんやり見えるので、ホウキボシ、ススキボシの名もあります。

編集後記

明けましておめでとございます。

ふと、思いつぎで一回限りの星屑編集を行ってみました。星屑による年賀状というのは我ながら良い発想と自負するのですが、はたして新年号はいかがなものでしたでしょうか。

ところで、この時期暦の上では新春といえ空気が冷たく、星を見るには大変な季節ですが、同時に星の輝きが大変美しく、また、低温ゆえに写真撮影には都合がよい季節でもあります。そこで、新年を節慶の中ではかり祝うのではなく、風邪などひかれぬよう十分に防寒をされた上で、畑につけた日本酒でも差しながら、家族で星屑初めなど行われて正月に華を添えるのも一興ではないでしょうか。

それでは、このへんで失礼させていただきます。

どうか今年も皆様にとって良い年であります様に。

昭和63年 元旦

熊本県民天文台機関誌「星屑」 1988年1月号 通巻157号

発行所 熊本県民天文台 〒861-42 熊本県下益城郡城南町藤山

TEL 0964-28-6060

熊本県民天文台事務局 〒860 熊本市古京町3番2号 熊本市博物館内

TEL 096-324-3500

振替口座 熊本8-24463

熊本県民天文台事務局

編集担当 渡辺 知史